

● Culture



角川まんが学習シリーズ「世界の歴史17 第二次世界大戦後の国際関係」©KADOKAWA CORPORATION 2021 南北分割占領下の朝鮮半島で、李承晩ら右派が南部での単独政権づくりを目指していく

対馬に多くの遺体漂着

「四・三事件」の被害者と日本のつながりは深い。大阪には、戦前から済州島との定期連絡船が運航していた。事件前から島とのゆかりが深く、事件後は多くの島民が逃れてきた。文名誉教授は「事件から逃れるために1万人以上が日本に密航したのではないかとみる。大阪市の統国寺では2018年、境内に慰霊碑が建てられ、碑の周りに

は、事件当時、済州島にあった村の数と同じ178の石が並べられている。「四・三特別法」の改正法によって、被害者らに対し新たに聞き取り調査が始まった。日本では、文名誉教授や伊地知教授らが調査に協力し、大阪などに住む被害者や遺族ら約50人の証言を2年間かけて記録。昨年10月に報告書を、韓国政府からの委託で

調査を担当する現地の「済州四・三平和財団」へ提出したという。朝鮮半島に近い長崎・対馬では、かつて事件の犠牲者とみられる遺体が多く流れ着いた。地元住民が手厚く埋葬したとされ、今では毎年秋に慰霊祭が行われており、遺族会のメンバーらが犠牲者を悼みに訪れる。2007年には、供養塔が建てられた。文名誉教授は「対馬に漂着した遺体の多くは、虐殺を隠すために済州島沿海に放置された犠牲者だろう」と指摘している。



大阪市の統国寺に立つ四・三事件の慰霊碑。文名誉教授提供

* 歴史研究が深まるにつれて世界史のトピックは見直されています。「世界史アップデート」では、研究成果を反映した最新説を、広く知られた従來說と比較しながら紹介します。「日本史アップデート」と隔週で掲載する予定です。